

# 2025年 新課程入試 「各大学 予告一覧」

## — 解説編 —

旺文社 教育情報センター 2023年1月19日

大学は原則、2025年新課程入試の予告を本年度中に公表することになっている（「2年前予告」の原則）。しかし公表時期や内容は大学によりさまざま。詳細な予告を公表した大学もあれば、大まかな方針のみの大学、未公表の大学も非常に多い。そのため現段階で全教科・科目を網羅した一覧にまとめることはできない。

そこで旺文社 教育情報センターでは「新課程で特に注目すべき点」に絞り、各大学の予告を一覧（別表）にまとめた。本記事ではその見方と全体的な傾向を解説していく。

※各大学の予告内容は別表 [「各大学 予告一覧」](#) を参照。

※「予告一覧」は今後、各大学の公表にあわせて随時更新していく。本記事は傾向に変化があった場合に限り、更新していく予定。

### ●本記事のサマリー

#### ■■■ 共通 新課程の注目点 ■■■

【地公】「地総、歴総、公共」は特に国公立の難関大、医学部等で選択不可。

【数学】これまでの「数ⅡB」と比べて「数ⅡBC」を利用する大学は現状変化なし。

【情報】「情報Ⅰ」は一般では「国立大＝必須」「公立大＝難関大を中心に必須、あとは選択または課さない」「私立大＝選択または課さない」。

#### ■■■ 独自入試 新課程の注目点 ■■■

【国語】「論理国語＝含む」かつ「文学国語＝除外」の大学に注目。評論文重視か。

【地公】「地総」「歴総」「公共」を出題範囲に含む大学が多数派だが、除外する大学も一定数。

【数学】国公立大&私立難関大は「文系＝ⅠⅡABC（B＝列、C＝べ）」「理系＝ⅠⅡⅢABC（B＝列、C＝べ平）」が中心。

※「列＝数列」「べ＝ベクトル」「平＝平面上の曲線と複素数平面」。

【情報】現状、独自に作問して出題する大学はほぼなし。

【経過措置】「共通範囲から出題」「不利とならないように配慮」が大半。

## 共テ「地公」の注目点

(別表「[予告一覧](#)」欄⑨)

### 【注目点の背景】

- ・共テの地公は指導要領の「必履修科目+選択科目」で構成されたものが5科目(例「歴史総合、日本史探究」)、「3分野の必履修科目」が1科目(「地理総合、歴史総合、公共」)の計6科目※。
- ・この中で異質なのが「地総、歴総、公共」。もともと専門高校の受験生などを想定して用意された科目(職業系の科目があって地公の選択科目までなかなか履修できない)。

※以下、次のように表記。「地理総合=地総」「地理探究=地探」など。

### 【共テ「地公」の注目点】

- ・各大学は「地総、歴総、公共」を入試科目に含めるのか。

↓

### 【現状の傾向】

- ・特に国公立の難関大、医学部等で選択不可(入試科目から除外)。

### 【予告一覧の見方】

- ・「含む=『地総、歴総、公共』を入試科目に含む」「含まず=含まない」「?=不明」。

## 共テ「数学」の注目点

(別表「[予告一覧](#)」欄⑩)

### 【注目点の背景】

- ・共テの数学は「数ⅡB⇒数ⅡBC」に変わり、負担増となる。

### 【共テ「数学」の注目点】

- ・各大学は「数ⅡBC」を課してくるのか(除外してくる大学はあるか)。

↓

### 【現状の傾向】

- ・これまでの「数ⅡB」と比べて利用する大学は現状変化なし。  
(ただしまだ私立大の予告が少ない状況)

### 【予告一覧の見方】

- ・「●=必須」「△=選択」「×=課さない」「?=不明」。

## 共テ「情報」の注目点

(別表「[予告一覧](#)」欄⑪)

### 【注目点の背景】

- ・国立大は共テの「情報」を一般選抜で必須にする方針(国大協方針)。

### 【共テ「情報」の注目点】

- ・「情報」は公私立大も含めてどの程度が課してくるのか。

↓

### 【現状の傾向】

- ・一般では「国立大＝必須」「公立大＝難関大を中心に必須（東京都立大、大阪公立大など）、あとは選択または課さない」「私立大＝選択または課さない」。
- ・国立大では北海道大（ボーダーでの判定のみに利用）、徳島大（総合判定の参考）のように点数化をしない大学も。

### 【予告一覧の見方】

- ・「●＝必須」「△＝選択」「×＝課さない」「？＝不明」。

## 独自入試「国語」の注目点

（別表「[予告一覧](#)」欄⑬～⑲）

### 【注目点の背景】

- ・指導要領における国語の科目は「必修科目＝現代の国語／言語文化」、「選択科目＝論理国語／文学国語／国語表現／古典探究」に細分化※1。
- ・このうち「現国＝論理的な文章、実用的な文章」「言文＝文学（古漢含む）」を主な題材として扱う科目※2 ⇒ この2つで大学はどの分野からも出題が可能（この2科目は基本的にどの大学も課す）。
- ・そのため「現国＋言文のみ」の大学（大阪大など）と「全科目を範囲」にする大学（東京大など）でも、明確な違いはない。
- ・注目すべきは、たとえば「現国＋言文＋論国」の大学。「現国＋言文」が入っているので何が出題されてもおかしくはないが、あえて「文国」を除外して「論国」を出題範囲に ⇒ 評論文重視の出題をするメッセージと受け取れる。

※1.以下、次のように表記。「現代の国語＝現国」「言語文化＝言文」「論理国語＝論国」「文学国語＝文国」「国語表現＝国表」「古典探究＝古探」。

※2.言文はこのほかに日本の伝統や文化に関する評論なども扱う。

### 【独自入試「国語」の注目点】

- ・各大学は国語の出題範囲をどう設定するか（特に「論国」「文国」）。

↓

### 【現状の傾向】

- ・「論国＝含む」かつ「文国＝除外」の大学に注目（埼玉大、お茶の水女子大、学習院大など）⇒ 評論文重視か。
- ・中には「現国＋論国」の大学も（埼玉大－経済（昼）[前期] 一般選抜枠など）⇒ 上記以上に評論文重視。

### 【予告一覧の見方】

- ・「必須／選択」欄 … 国語そのものを課すか否か。「●＝必須」「△＝選択」「？＝不明」。
- ・各科目欄 … 国語を課す場合の出題範囲。「○＝課す」。
- ・「除外分野」欄 … 出題範囲から除外するもの。例「古漢＝古文、漢文は除外」。

【そのほかイレギュラーな凡例】「現国、言文」欄で「○（現代の国語）」… 現国のみ課す（言文は除外）。

## 独自入試「地公」の注目点

(別表「[予告一覧](#)」欄⑳)

### 【注目点の背景】

- ・地公の共テの科目は主に指導要領の「必修修科目+選択科目」で構成(例「歴総、日探」)。それでは各大学の独自入試では、必修修科目を出題範囲に含めるのか。
- ・特に「歴総」は近現代の日本史と世界史の融合科目 ⇒ 両分野の学習が必要となる。

### 【独自入試「地公」の注目点】

- ・各大学は必修修科目「地総」「歴総」「公共」を出題範囲に含めるのか。  
※たとえば世界史は「歴総、世探」か「世探のみ」か、公民は「公共、政経」か「政経のみ」か、など。

↓

### 【現状の傾向】

- ・含む大学が多数派だが、除外する大学も一定数(筑波大、東京大、京都大など)。(ただし結局、受験生としては共テで「地総」「歴総」「公共」の対策が必要)

### 【予告一覧の見方】

- ・「含む=『地総』『歴総』『公共』を出題範囲に含む」「含まず=含まない」「?=不明」。

【そのほかイレギュラーな凡例】「含む(公は含まず)」…たとえば入試科目が「歴総、日探」「歴総、世探」「政経」となっている場合 ← 日本史と世界史は「歴総」を含むが、政経は「公共」を含まない(「公共、政経」ではない)。

※本欄は地理、歴史、公民そのものを課すのかどうかを示したものではない。たとえば「含む」となっている場合、入試科目が「歴総、日探」「歴総、世探」のみの場合もある(地理、公民はそもそも課さない)。

## 独自入試「数学」の注目点

(別表「[予告一覧](#)」欄㉑～㉕)

### 【注目点の背景】

- ・指導要領における数学の科目は、新たに数 C が追加。独自入試は数 B と数 C に注目。
- ・指導要領上の学習項目はそれぞれ3項目。「数 B=数列/統計的な推測/数学と社会生活」「数 C=ベクトル/平面上の曲線と複素数平面/数学的な表現の工夫」※。
- ・ただし標準単位数はいずれも2単位。「1項目=1単位」程度が想定されており、高校では数 B、数 C とともに2項目を選択履修するのが標準的。

※以下、次のように表記。「列=数列」「統=統計的な推測」「ベ=ベクトル」「平=平面上の曲線と複素数平面」。

### 【独自入試「数学」の注目点】

- ・各大学は数学の出題範囲をどう設定するか。特に数 B、数 C の出題項目は。

↓

### 【現状の傾向】

- ・国公立大&私立難関大は「文系= I II ABC (B=列、C=ベ)」「理系= I II III ABC (B=列、C=ベ平)」が中心。

↓

### 【問題点】

- ・「列」「べ」は旧課程ではともに数 B ⇒ 新課程で数 B と数 C に分離 ⇒ しかし結局、これまでどおり「列」「べ」を課す大学が多い ⇒ 数 B、数 C から各 1 項目の「つまみ食い」のような出題状態に。

※なお、共通の数ⅡBC は、BC の範囲から「B=列、統」「C=べ、平」の 4 項目を出題、3 項目を選択解答。

↓

### 【高校はカリキュラムをどう組むか】

- ・高校は標準単位数のとおり、文系も理系も数 B と数 C を各 2 単位、2 項目履修（「数 B=列、統」「数 C=べ、平」）できればいいが、入試対策としては効率的でない。
- ・いくつかの教育委員会に数 B、数 C を 1 単位で設定することについて問い合わせたところ、「教育委員会としては制限していない」「各学校の教育目標に即しているのであれば可」「『1 項目=1 単位』と考えるのが基本であり、それにのっとっていれば可（2 単位で 1 項目しかやらない等ではなく）」などの回答。
- ・現状、各高校のカリキュラムは標準単位数どおり（数 B、数 C=各 2 単位以上）のほか、特に文系クラスで「数 B=2 単位」「数 C=1 単位」の高校も多い。

### 【予告一覧の見方】

- ・「必須／選択」欄 … 数学そのものを課すか否か。「●=必須」「△=選択」「?=不明」。
- ・「出題範囲」欄 … 数学を課す場合の出題範囲。
- ・「数 B」「数 C」欄 … 数 B、数 C の出題項目。

## その他の注目点

### 【独自入試「情報」】（別表「予告一覧」では割愛）

- ・「情報」を独自に作問して出題する大学はほぼなし。現状、以下の 2 大学のみ。
  - > 広島市立大－情報科学〔後期〕…「情報Ⅰ」（必須）
  - > 慶應義塾大－総合政策、環境情報〔一般〕…「情報Ⅰ、Ⅱ」（他教科と選択）

### 【独自入試「経過措置」】（別表「予告一覧」欄㊟）

- ・「独自入試の経過措置」を公表している大学は少ない。
- ・公表している大学は、おおよそ次の 3 つのいずれか …「新旧課程の共通範囲から出題」「旧課程履修者が不利とならないように配慮」「配慮するが特別な措置は取らない」。

旺文社 教育情報センターではこのほかにも、「高度な記述式（特に国立大）」「英語の外部検定」「調査書の点数化」「本人記載の資料」について予告の集約を行った。しかしこれらに言及している大学は非常に少なく、「予告一覧」では割愛している。

(2023.01 石井)